



### とめ青年会議所 青少年育成事業「子供議会」

民間団体での代表的な取り組みとして挙げられるのは、(公社)とめ青年会議所(佐藤利尚理事長)が主催する「子供議会」。青少年育成事業の一環として実施しており、昨年6回目の開催を迎えました。

「子供議会」は市内の中学生が、市長、教育長や市職員と実際に議会で、まちづくりについて討論を交わすもの。参加した生徒は「登米市がよいまちになるよう、自分たちも頑張らなきゃ」と感想を話します。



### 市政モニター会議など広聴事業

市は、よりよいまちづくりに向けて、市民の要望や意見を広く聴き入れる「広聴事業」を実施しています。「市政モニター」は市民の声を市政に取り入れ、協働のまちづくりを目指すために設置しています。任期は

1年で、20人以内で構成。20歳以上であることなどが条件となっています。市長と議会が市民福祉の向上を目指し議論するのに対し、こちらは市の取り組みについて感じていることなどの意見をもらっています。

# 4月に登米市長および市議会議員選挙を執行

登米市長および市議選は、私たち市民にとって最も身近な選挙。私たちが住むまちをより良くするためには、さまざまな人たちの意見が必要です。



選挙は世代を超えた関係づくりの絶好の機会

4月23日に登米市長選挙・登米市議会議員一般選挙を執行します。本市に住む、私たちの生活に直結する大切な選挙です。平成17年4月29日、本市が誕生して初めて執行した選挙の投票率は、市長選挙82・51%、市議会議員選挙82・51%。25年4月21日執行の選挙は、市長選挙69・61%、市議会議員選挙69・61%と、それぞれ約13ポイント低下しています。

昨年の第24回参議院議員通常選挙(県選挙区)の投票率は50・33%と、県内35市町村中31番目に低い値でした。年代別では最高が65～69歳で73・58%、最低が20～24歳で20・39%。年代が下がるほど投票率が低下する傾向がありました。

選挙権は18歳以上になりましたが、国会議員被選挙権は30歳以上、市区町村議員でも25歳以上です。投票する側とされる側に世代ギャップが生まれます。ギャップがあるからと諦めるのではなく、互いの声を聴き合うことが必要です。選挙は、私たちの代表を選ぶ機会であると同時に、世代を超えて意見交換する絶好の機会なのです。

### コミュニティ再生が一つの鍵

議会では、条例や予算の決定、ま

ちづくりの施策など、大きな問題ばかりが話し合われているわけではありません。一般質問は、私たちの生活の身近な課題、日常の困りごとにも及びます。例えば、冬場であれば除雪の対応、夏場であれば道路脇の除草処理などが質問されます。これは、地域から議員に届けられた意見。小さな声でも議会に届くのです。市長や議員に意見を届けるのは、政治などに興味を持った高年齢層が多くなりがちです。

しかし、昔は若い世代も数多く意見を届けていました。地域のつながりが密接だったからです。今から40年ほど前までは、行政区単位での夏祭りは当たり前。祭りの集まりには、老若男女問わず多くの地域民が集まります。人が集まれば、祭りだけではなく、普段の生活の話にも。そこで、議員は年代を問わず、地域の問題などを聞き、議会で議題としたのです。祭りの話は一例ですが、一昔前は「寄り合い」の中で、異世代間交流があり、顔の見える関係が築かれていました。顔が見え意見が届けば、必然的に投票率も高くなると考えられます。地域コミュニティ再生が、投票率向上の一つの鍵ではないでしょうか。

### 若い世代もいつかは老人に

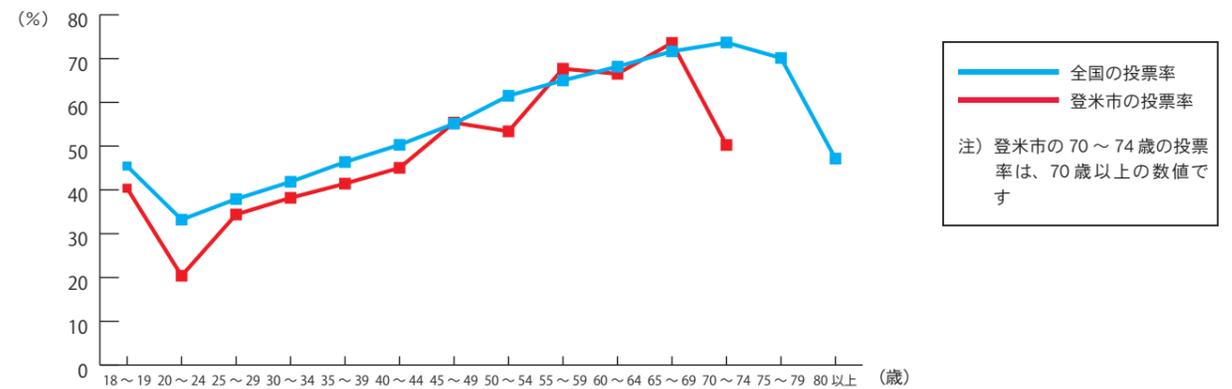
公益財団法人明るい選挙推進協会

が2015年に実施した第47回衆院選全国意識調査によると、20～30代の棄権理由として多かったのは、「選挙にあまり関心がなかったから(32・2%)」。年代が上がるに連れて少なくなりますが、60歳以上は「解散理由に納得がいかなかったから(24・8%)」が最も多く、年代が下がるに連れて少なくなっています。若い世代ほど選挙に関心がなかったといえます。

子育て、親の介護や自分の老後など、今は関係なくても、いずれやってくることはたくさんあります。「1人だけでは何も変わらない」「投票した人がいない」と棄権しては、何も変わりません。1人だけでは何も変わりません。

らないと思うのであれば、選挙運動で知人に投票を依頼する。自分の考えと同じ候補者がいなければ、近い人に投票する。そのように意見を伝えていくのも一つの方法です。第24回参議院選後、全国の18～24歳を対象にした調査では、高校で選挙に関する授業があった人となかった人の投票行動を「18、19歳」と「20～24歳」に分けて見ると、どちらも受けたことがある人の方が、なかつた人より投票に行ったと回答。選挙を学ぶ機会の必要性が読み取れます。選挙について学ぶ機会を行政、学校や地域がつけることで、関心を持つ人が増え、より良いまちづくりへの意見が増えるのではないのでしょうか。

第24回参議院議員通常選挙の年齢別投票状況

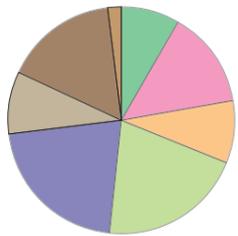


【参考】

### 新有権者など、若年層の参院選投票日後の意識調査

Q あなたが投票に行ったのはどういう気持ちからですか。(複数回答)

- 支持政党があった、または当選させたい候補者がいた (16.9%)
- 若い人の声を政治に届けたかったから (28.0%)
- 親や先生から投票に行くように言われたから (17.5%)
- 政治をよくするためには、投票することが大事だから (41.0%)
- 投票をするのは国民の義務だから (42.8%)
- 選挙年齢引き下げ後に初めて行われた国政選挙だったから (18.3%)
- 選挙に行ったほうがなんとなくいいと思ったから (31.9%)
- その他 (3.7%)



※公益財団法人明るい選挙推進協会調査(2016年7月調査実施)より